



mps

東大まちづくり大学院

Urban Engineering Civil Engineering Architecture

2019年度コース案内

東京大学大学院工学系研究科
都市持続再生学コース

**Master's Program in
Sustainable Urban Regeneration**

東大まちづくり大学院で学ぼう.....	1
教員紹介.....	2
教育プログラムの特色.....	4
修士研究紹介.....	6
修了要件と学位.....	8
入学試験.....	9



東大まちづくり大学院で学ぼう

(工学系研究科 都市工学専攻 都市持続再生学コース 社会人向け修士課程)

社会人のためのまちづくり大学院

東大まちづくり大学院(都市持続再生学コース)は、社会人向けの大学院修士課程で、東京大学大学院工学系研究科の都市工学専攻、社会基盤学専攻、建築学専攻の3専攻がサポートします。まちづくりに関連する広い分野の実務経験者を対象に、総合的な教育を行い、まちづくりの現場において中心となって活躍する高度な知識をもった専門家を養成することを目的としており、国内に類例のないプログラムです。

学生像は、自治体都市計画関係職員・政府機関職員、不動産・建設・その他関連企業都市開発担当者、まちづくりNPOメンバー、まちづくりに関心をもつ社会人など多岐にわたると想定されており、実際に在校生は年齢20代から60代まで、出身大学は東北から九州まで、職場も自治体あり、民間企業ありと多彩です。

人口減少、国際化、情報化等が進行する中で大きく変わる都市社会やまちづくりに、最新の知識と深い思考で立ち向かうために、ぜひ「東大まちづくり大学院」で学んでください。

特徴

■在職したままで修了可能

夜間・土曜日の受講により在勤のまま所定の単位を修得することが可能です。入学時に長期履修学生制度を申請すれば、同額学費で修学年限を3年または4年に延長することも可能です。

■横断的な教育プログラム・充実した講師陣と産学官の連携

東京大学大学院工学系研究科の3専攻の協力体制のもと横断的な教育プログラムを展開します(学生の所属は都市工学専攻)。教授陣は、学術面においてトップクラスの第一人者や新進気鋭の若手教員の他、国土交通省等の官庁・自治体・民間企業等で豊富な実務経験を有する優れた専門家で構成されています。また、本コースの中に、不動産関係3社、建設関係5社、住宅関係1社、鉄道関係1社の合計10社のご協力で、寄付講座(都市持続再生学寄付講座 Laboratory for Urban Sustainable and Renaissance Studies)が開設され教育・研究に当たっています。

■教育プログラムの特色

実践に必要な理論、知識、技法・技術を学ぶための文理融合型講義内容です。持続可能な都市地域づくり、高齢化社会対応のまちづくり、安全安心のまちづくり、活力ある魅力的なまちづくり、協働のまちづくりなどの現代的な都市再生課題を取り上げます。広範囲な基礎知識を講義で身につけ、理論や技法・技術の応用・活用方法については、演習で理解を深めるという段階的な教育プログラムを採用しています。仕上げは、個別指導による修士論文のための研究を行います。

ご挨拶と東大まちづくり大学院教員紹介 (2019年4月1日現在)

dean of the school of engineering



Prof. Tatsuya Okubo

■工学系研究科長 大久保 達也 教授

様々な要因が複雑に絡みあった社会問題の解決に資するべく、工学系研究科には、多様な教育プログラムが用意されています。社会人を対象としたまちづくり大学院もそのひとつです。まちづくり大学院は、多様な側面から「まち」の課題を分析し、高度な知識と経験をもって有効な解決策を提案できる、まちづくりのプロフェッショナルを養成するためのプログラムです。社会基盤学専攻、建築学専攻、都市工学専攻の三専攻が協力し、理論と実践をバランスよく組み込んだカリキュラムが運営されています。本プログラムを最大限に活用して専門知識と実践能力を磨いていただき、修了後はまちづくりの第一線で活躍されることを心より期待しております。

chairs of the departments concerned



Prof. Makoto Yokohari

■都市工学専攻長 横張 真 教授

専門分野：緑地環境計画、ランドスケープ計画、サステイナビリティ

人口の減少や高齢化のみならず、働き方や暮らし方、それらの根底にある価値観まで、日本社会は今、大きな転換期をむかえています。都市計画は、50年100年先の社会を見据えながら、都市を計画すべきものです。しかし現状の都市計画にかかわる制度や理論は、残念ながら、社会の転換を先取りするどころか、現実の後追いすら十分にできていないのが実情です。そんな状況を悲観するかチャンスと考えるか。50年100年先の日本社会を見据えた新たな理論の構築という「知」のチャレンジを、一緒に楽しみませんか。

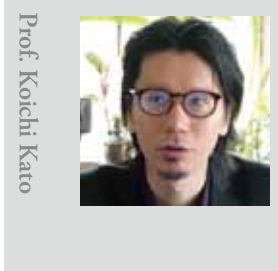


Prof. Eiji Haro

■社会基盤学専攻長 羽藤 英二 教授

専門分野：都市生活学、ネットワーク行動学、都市マーケティング論

ヘレンケラーは、学習と学習棄却(アンラーニング)という2種類の一見相反する学びのサイクルをたえず回していくことが個人の成長に必要な不可欠であると云っています。個人、組織、社会、都市が今直面している激しい環境変化の中で、みなさん一人ひとりが継続的な成長を遂げるための「アンラーニング：学びほぐし」の場が大切ということではないでしょうか。都市・建築・社会基盤を枠を飛び越えた活動を続けている東大まちづくり大学院において、皆さんと一緒に学びなおすことを楽しみにしています。



Prof. Koichi Kato

■建築学専攻長 加藤 耕一 教授

専門分野：西洋建築史、西洋都市史、建築理論

歴史的観点からすると、現代社会は約5世紀続いてきた「近代」から次の時代への過渡期とも呼べる時代を迎えているように思われます。西洋の歴史を紐解くと、古代末期・中世末期の大きな社会変動に際して、都市と建築は、何よりもその価値観を大きく変貌させてきました。私たちは歴史の転換期にあり、これまでの常識を根底から覆すような広い視野を持つことが重要になっています。この大学院で学ぶことで、この変動の時代をリードする力を身につけていただきたいと思います。



Prof. Noboru Harata

■まちづくり大学院 コース長 原田 昇 教授

専門分野：交通まちづくり、持続可能な都市構造、交通行動分析

まち大は、入学者数215名、修了者数150名と実績を重ね、学年を超えた学生交流も活発です。社会人学生の持つ専門性と高い問題意識が、豊富な講師陣による質疑の盛んな講義、学生の専門性が化学反応を起こす演習、アカデミックな作法の中で独自の研究成果をまとめる修論構築と格闘することを通して、現代社会のまちづくりに役立つ発想、知識と技法が習得され、現場のプロジェクトチームをリードする人材が輩出されることを期待します。

■都市工学専攻

浅見 泰司	教授	都市計画、都市住宅学、空間情報解析
城所 哲夫	准教授	アジア都市論・地域活性化論
窪田 垂矢	特任教授	地域デザイン、復興計画
瀬田 史彦	准教授	人口減少局面の国土・地域・都市政策
高見 淳史	准教授	都市交通計画、交通と土地利用の統合的計画
中島 直人	准教授	都市デザイン、都市論、都市計画史
原田 昇	教授	交通まちづくり、持続可能な都市構造、交通行動分析
樋野 公宏	准教授	居住セキュリティ、都市居住・住環境
廣井 悠	准教授	都市防災、リスク工学
古米 弘明	教授	都市雨水管理、下水道システム、水環境保全
宮城 俊作	教授	都市環境デザイン、景観デザイン
村山 顕人	准教授	環境負荷低減・減災に向けた都市計画、計画策定技法
森口 祐一	教授	物質フロー分析、ライフサイクルアセスメント、廃棄物処理・リサイクルシステム
横張 真	教授	緑地環境計画、ランドスケープ計画、サステイナビリティ
ほか、都市工学専攻教員		

■先端科学技術研究センター

小泉 秀樹	教授	コラボラティブ・プランニング、まちづくり論、コミュニティ・デザイン
-------	----	-----------------------------------

■生産技術研究所

加藤 孝明	准教授	地域安全システム学、減災・復興まちづくり、自然災害リスク評価、計画支援システム
-------	-----	---

■社会基盤学専攻

羽藤 英二	教授	都市生活学、ネットワーク行動学、都市マーケティング論
ほか、社会基盤学専攻教員		

■建築学専攻

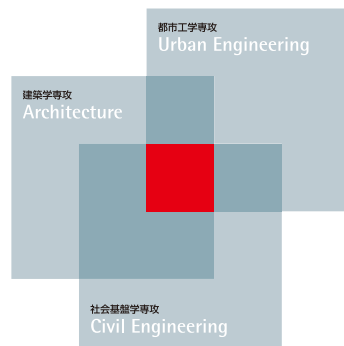
隈 研吾	教授	建築家、都市・建築デザイン
ほか、建築学専攻教員		

■非常勤講師(予定を含む)

明石 達生	東京都市大学都市生活学部	教授
石山 千代	東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻	特任研究員
遠藤 薫	東京電機大学未来科学部建築学科	特任教授
大方潤一郎	明治大学経営学部	特任教授
岡井 有佳	立命館大学理工学部環境都市工学科	教授
柏原 沙織	東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻	特任研究員
亀卦川幸浩	明星大学理工学部	教授
片山 健介	長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科	准教授
鈴木 俊治	芝浦工業大学システム理工学部環境システム学科	教授
篠沢 健太	工学院大学建築学部	教授
志摩 憲寿	東洋大学国際学部	准教授
高松 誠治	スペースシンタックス・ジャパン株式会社	代表取締役
信時 正人	エックス都市研究所	理事
増田 寛也	野村総合研究所	顧問
森 民夫	元長岡市長・全国市長会	会長
和良地克茂	和良地アソシエイツ合同会社	代表社員

*教員の最新情報は、東大まちづくり大学院のサイト(<http://www.due.t.u-tokyo.ac.jp/mps/faculty.html>)をご覧ください。

教育プログラムの特色



充実したコースワーク

従来の研究重視型大学院教育とは異なり、実践に必要な広範な理論、技法・技術を獲得するため、文理融合型の充実したコースワークを用意しています。

現代的都市再生課題に焦点をあてた段階的な教育プログラム

持続可能な都市地域づくり、高齢化社会対応のまちづくり、安全安心のまちづくり、活力ある魅力的なまちづくり、協働のまちづくり、といった現代的な都市再生課題を講義の主題に捉え、これら課題に取り組む際に実際に役立つ理論、知識、技法・技術を身につけ、必要とされる企画構想力・調整能力を養います。

段階的な教育プログラム

異なる講義形式を用いた段階的な教育プログラムにより、効率的に受講生の能力を高めます。広範にわたる基礎知識を座学型講義で身につけ、都市再生実務における理論や技法・技術の応用・活用方法についてはケースメソッドで理解を深めます。そして、実務実践型講義では身につけた知識を活かすために必要となる構想・調整能力を養います。

■講義

都市空間政策 (選択:1単位/半学期)

都市の空間計画、交通政策、環境政策、安全・安心、都市福祉政策、都市のガバナンスといった広範な領域について、充実した講師陣による最先端の講義によって、現代の都市づくり・まちづくりに必要な知識を獲得します。

都市経営基礎 (選択:各2単位/1学期)

マネジメント、行財政制度、住宅・不動産開発、都市社会論といった広範な領域について、社会科学系の基礎知識を体系的に獲得します。

都市経営戦略 (選択:各2単位/1学期)

都市の産業と経営戦略、都市の文化・観光政策といった講義群により、都市経営や都市政策の立案に必要とされる、より実践的な知識を獲得します。

その他 (上記の講義の一部または特別講義により行うもの)

省庁担当等による都市関係制度・事業、自治体による先駆的試み、最新の都市開発事例などを紹介・概説する講義・セミナー、学術研究や論文執筆の手法を概説する講義、また自治体首長、先進事例の実践者、海外の著名研究者による講義・講演などを予定しています。

■演習

まちづくり演習 (1年次) (必修:3単位/1学期 全6単位)

日常生活圏のまちづくり、持続可能な都市圏計画、パブリックライフ/パブリックスペースの計画、都市空間・環境・コミュニティのデザインなど、現代におけるプランニングの主要課題を対象に、都市再生の第一線で活躍する専門家(非常勤講師を含む)による実践的指導のもと、政策・手法・戦略・事業の企画構想・提案を行います。演習では、ケースメソッド方式の講義を踏まえつつ構想・提案を行います。

まちづくり演習 (2年次) (選択:最大2単位/1学期)

学生の発意により、自由にテーマを設定して不定期に行います。過年度には、都市開発事業の企画設計などのテーマを扱いました。

■研究

都市持続再生学特別演習 (修士研究 必修:2単位/1学期 全4単位)

学生の実務・関心に直結した研究を2年次より行います。

講義：平日夜 火・水・木・金 6限：18：40～20：05、7限：20：10～21：35
演習：土曜日 3-5限：13：00～18：10 研究：随時

	A1・A2ターム(冬学期)	S1・S2ターム(夏学期)
1年次(2年次以降も履修可)	講義 都市空間政策 (選択) 各1単位(半学期) 火・水・木・金(6限、7限) 都市地域計画論・基礎編 ●都市空間政策の基礎(都市計画制度概説、都市マスタープラン・土地利用計画の策定手法、地区レベルの計画策定手法) 都市情報の分析 I ●都市解析 都市情報の分析 II ●交通・土地利用・人口分析とGIS 都市と環境 I ●環境工学の基礎 都市の交通政策 I ●交通まちづくり、持続可能な都市、合意形成の実践 都市の交通政策 II ●交通まちづくり、交通バリアフリー、少子高齢化社会 都市防災概論 ●災害対応を中心とした都市の防災・減災政策	都市地域計画論・街並編 ●都市デザイン、復興とまちづくり 都市地域計画論・コミュニティ編 ●コミュニティデザイン、マネジメントの理論と実践 スマートコミュニティ論 ●ICT、IoT等先端技術の都市への応用 都市輸出論 ●都市輸出、途上国・振興国都市の持続的発展 都市と環境 II ●環境工学の応用 安全安心まちづくり論 ●日常的な危険への対応 超高齢化社会のまちづくり I II ●活力ある超高齢化社会の構築と実現手法 都市再生・不動産開発事業とファイナンス ●都市・不動産開発の実務 都市地域政策の構想と展開 ●政策担当者による講義 持続可能な都市圏計画論 ●各国の都市圏計画 緑地環境計画論 ●都市や郊外の緑地、農地、里山の持続的な整備と保全
	都市経営基礎 各2単位(1学期) 都市開発のマネジメント論 ●現代の都市空間マネジメントのあり方と手法 都市の公共政策と法制度 ●都市計画に関する諸制度とその運用 都市社会論 ●社会学的な視点と都市問題	都市再生・不動産開発事業とファイナンス ●都市・不動産開発の実務 都市産業と経営戦略 ●産業活動の動向とイノベーション
	都市経営戦略 各2単位(1学期) 都市の文化・観光政策 ●都市における文化と観光要素	学術研究基礎 ●研究および論文執筆の手法
	その他 1単位(1学期)	学術研究基礎 ●研究および論文執筆の手法
	演習 各3単位(1学期) (必修) 全6単位 土曜3-5限 日常生活圏のまちづくり ●少子高齢化社会に対応したまちづくり手法 持続可能な都市圏計画 ●都市圏計画・広域計画の策定	パブリックライフ/パブリックスペース ●快適性、美しさ、賑わい、路上空間の活性等の戦略と手法 ランドスケープ・デザインコース コミュニティ・デザインコース *いずれかのコースを選択
2年次	演習 最大2単位(1学期) (選択) 不定期 ※自由テーマ(学生の発意により設定)	
	研究 各2単位(1学期) (必修) 全4単位 随時 修士論文研究	修士論文研究

■特別講義(随時開催) ■他コース、他専攻講義(平日昼間開催・自由選択) ■演習(選択)については、希望学生が少ない場合など開講しないことがあります。

*上図は、各講義の大まかな開講時期と概要を示しています。より正確な開講時期やシラバスは、各学期開始前にご確認ください。また、現在のシラバスは東大まちづくり大学院のサイト(<http://www.due.t.u-tokyo.ac.jp/mps/curriculum.html>)でも公開しています。

master's research

修士研究紹介

まちづくり大学院では、講義や演習で習得した知識や技術を基礎として、教員の個別指導のもと、各学生が自身の実務、関心に応じた研究を行います。ここではその成果の一部をご紹介します。



松下 佳広

第10期/2018年9月修了/都市計画コンサルタント

論文タイトル: 公民連携による公共空間のマネジメントに関する研究
—都市利便増進協定に着目して—

私は都市計画コンサルタントとして日々まちづくり/都市計画の実務に関わるなか、学術の立場からも今とこれからのまちづくりを眺め、自分の立ち位置を見定めたいと思いまちの門を叩いた。

修士研究では公民連携が進むと公共空間はどうなっていくのだろうという点に強い興味を持ち、テーマを選んだ。なかでも都市利便増進協定は他の協定制度と比べてフレキシブルで、大変有用な協定制度となり得ることに可能性を感じた。また在学中に日本都市計画学会の査読論文投稿にもチャレンジし、先生方のご指導によりなんとか査読論文を通すことができた。大変貴重な体験であった。

これまでの私であれば自分の実務を題材に学術論文を書くことは夢にも思っていなかったが、今後は学術的な整理にも定期的にチャレンジし、実務へのフィードバックをしたい。このような心境の変化を与えてくれた本大学院及び先生方、同志の皆様へ改めて御礼申し上げたい。

自治体名	締結時期	都市利便増進協定の対象地
熊山市	2012/03	グランドプラザ
川崎市	2012/08	サイクルポート8ヶ所
札幌市	2013/03	札幌駅前通(国道)
草津市	2013/12	ニワタス、草津川緑地公園
大阪市	2014/12	グランフロント大阪及び周辺道路
東海市	2016/02	太田川駅前
柏市	2017/02	北柏駅前公園緑地
長崎市	2017/03	長崎駅前広場ほか
佐白市	2017/03	荒井東1号公園
さいたま市	2018/02	OM TERRACE
福井市	2018/04	市道ほか

都市利便増進協定の事例一覧(研究時点)



大木 寧子

第9期/2018年9月修了/地方公務員

論文タイトル: 木造密集市街地解消を契機とした低家賃住宅の減少と居住支援の課題
—東京都北区田端地区を中心として—

私は、大学で都市計画やまちづくりを学んだ後、早く現場のまちづくりに携わりたく大学院には進学せず地方公共団体に就職した。業務では、土地区画整理事業や公有地活用のプロジェクト等に携わり、事業を進める上での困難さや制度運用の実態を知ることができた。一方で、細分化された業務の中で、長期的な視点や俯瞰的な立場からまちづくりについて再度考え直したいと思い、まちづくり大学院に入学した。

修士研究では、携わった業務の中で生じた疑問を中心にテーマを深掘りさせてもらい、住宅政策の視点から木造密集市街地解消における課題を追った。まちづくりを進めていく上では、ひとつの事業のみでは完結せず、様々な計画、制度、プレーヤー等の連携、同時にそれを包括するビジョンが非常に重要であることがわかった。大学院を修了した今、この研究成果とまちづくり大学院で得た学びを仕事を進めていく上でも活かしていきたい。



木質アパートの建替え状況(左の写真の出典:「田端事業誌」)



片桐 暁史

第9期/2017年9月修了/鉄道会社(不動産業)

論文タイトル: 多世代居住型まちづくりにおける居住者交流に関する研究
—サービス付き高齢者向け住宅と一般住宅の併設事例を対象に—

鉄道会社で都市開発に約10年間携わってきた中、我が国の人口減少等の実態と将来像を正確に理解し、長期的視点からそれらを克服できる持続的まちづくりのあり方について学びたく、入学した。

修士研究では、業務でも計画している『多世代居住型まちづくり』をテーマとした。サービス付き高齢者向け住宅と一般住宅の併設事例を対象に、インターネット検索調査により事例を全数抽出し、整備状況の全体像を明らかにした上で、アンケート・インタビュー調査により、居住者交流や事業者の取組について把握を行った。結果、高齢者向け住宅と一般住宅が単に併設されるだけでは異世代交流は進まず、交流促進にはハード(交流施設の整備、自然と顔を合わせる配棟・動線計画等)、ソフト(事業者による交流イベント企画等)両面からの取組が有効であることが分かった。

働く中で抱いた課題や関心に対し、学術的アプローチから取組み、それを実践していけるところが、本大学院の大きな魅力である。



研究対象とした「多世代居住型まちづくり」イメージ
出典:NTT都市開発株「つなぐTOWNプロジェクト」概要資料をもとに筆者作成



西阪 玲子

第6期/2017年9月修了/コンサルタント(再開発等)

論文タイトル: 被災地方都市のまちなか復興における市街地再開発事業の事業管理に関する研究
—石巻市の復興再開発事業における実践と課題—

入学当初は不動産デベロッパーに在籍していたが、その後、まちづくり大学院の学外講師の事務所に転職し、コンサルタントとして東北の復興再開発事業に従事した。

論文は実践研究とし、石巻市の復興再開発事業における事業管理に関する研究を行った。まちづくり大学院において、身の丈開発の重要性、地域の魅力を残しながらまちづくりを行うことの重要性、コミュニティの重要性、また、既存制度のみに捕われるのではなく、まちづくりのために柔軟に事業を進めていくことの重要性等を学ぶことにより、実務としてのアイデアや、事業進捗に自信を持って対応することができた。これらの経験を活かし、現在新たな事業も進捗している。さらに、まちづくり大学院卒業後もまちづくりにおける様々な立場の人と継続した繋がりがあり、相談、議論できる人がいることは大きな糧となっている。



石巻市中央3丁目1番地区復興住宅竣工



道祖 英一

第8期/2017年3月修了/地方公務員

論文タイトル: 広域交流拠点駅における「駅まち広場」の空間・運営の実態とアクティビティとの関係に関する研究

駅前が乗換の交通広場で留まって良いのか。これからは都市(空間)を使う時世になると見越して、浜松・姫路駅など人々が憩い集う駅前空間を「駅まち広場」として2年間研究した。

その研究を生かし、自身が業務で携わっていたリニア中央新幹線神奈川駅(2027年開業予定)の駅前空間の検討においても、人・もの・情報・産業交流の場として、(仮称)シンボル広場を駅利用主動線上に配置する整備計画を策定することができ、今後、その計画の実現に向けた取組を進めることになる。

また、現在はリニア大阪開業を見据え、2040年のライフスタイル、ビジネススタイルのあり方等国土政策の検討を担っているが、幸運にもまちづくり大学院の講義で学べた視野、知見を生かしている。特にまちづくり大学院において一期一会で巡り合った方々と業務の相談を行う機会に恵まれ、修了後、改めて入学して良かったと、背中を押してくれた家族・職場に深謝している。



リニア中央新幹線神奈川駅イメージ
出典:相模原市広域交流拠点まちづくり(案)H.29.2)の一部加工



高濱 康

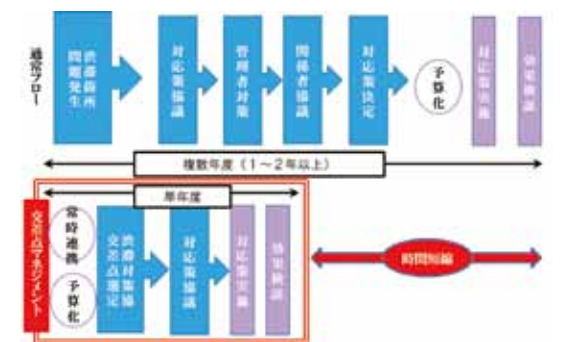
第8期/2016年9月修了/地方公務員

論文タイトル: 「交差点マネジメント」の有効性に関する研究—福島県郡山市における渋滞緩和策の効果に着目して—

私の修士研究は、業務上の課題を研究材料に、自らの提案を試行的に具現化する形で関係する行政機関(国・自治体・警察)と連携し、ビッグデータ等の提供による分析・検証に独自の調査結果を加え、成果としてまとめた内容である。

具体的には、自治体職員として勤務する地方都市における交通渋滞の緩和策について、課題抽出時点から効果発現までを「見える化」し、出来るだけ早く・上手く・安く仕上げる手法「交差点マネジメント」に着目して整理した。研究成果は、都市内代表交通手段分担率(自動車依存割合)等が類似する地方都市における渋滞緩和手法としての採用をはじめ、各関係機関で事業継続に係る予算確保の根拠など、徐々に浸透・定着しつつある。

また、本研究は、実務論文として交通工学論文集(特集号)への掲載並びに第37回交通工学研究会で発表論文として採択されるなど一定の成果を上げており、今後も継続的な事業展開が図られるものと考えている。



「交差点マネジメント」の有効性フロー

修了要件と学位

requirements for graduation

- 所定の 30 単位を修得し、修士論文を提出して合格すること。
学位：修士（工学）



■ 長期履修学生制度

職業を有しているなどの事情により、標準修業年限では、大学院の教育課程を履修することが困難であると認められる者に限り、標準修業年限を超えた計画的な履修年限を設定することができる制度です。

修士課程での標準履修年限である2年間で、3年または4年に延長して、計画的に履修することができます。

この制度では、標準履修年限の授業料の総額を長期履修期間として認められた年数で支払うことになります。たとえば、修士課程において、3年の長期履修が認められた場合、1年間に支払うべき授業料(年額)は、2年分の授業料(通常年額×2)の総額を3(3年間)で除した額となります。

入学試験

entrance examination

- 出願資格(次の①及び②を満たす者)

- ① 大学を卒業した者
- ② 原則として、出願時までに都市の計画、デザイン、マネジメント、整備・保全、あるいはさまざまなまちづくり活動に関わる分野で、社会人として2年以上の実務経験を有する者。
※詳しくは、学生募集要項を参照してください。

- 2019年度入学試験日程

学生募集要項・入学志望者案内Web公開日	4月 1日(月)
(http://www.due.t.u-tokyo.ac.jp/mps/)	
説明会	4月 8日(月) 19:00～
	本郷キャンパス 工学部14号館141講義室
出願時期	5月 7日(火)～5月17日(金)
入学試験	6月22日(土)
合格発表	7月 4日(木)
入学手続	9月17日(火)・18日(水)
入学式	9月20日(金)

- ※ 学生募集要項・入学志望者案内の入手方法については、東大まちづくり大学院のサイトでご確認ください。

- 入学試験の内容

筆記試験(英語、専門科目、小論文)、口述試験

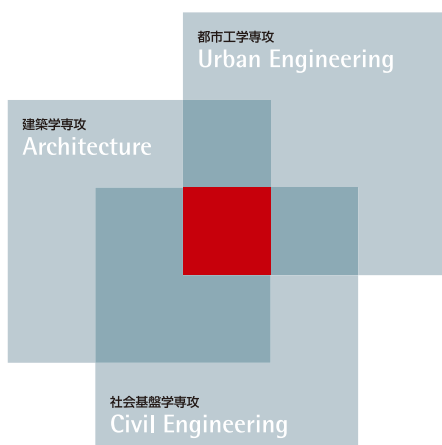
- ※ 上記の記述(出願資格・入学試験日程・入学試験の内容)は、いずれも予定です。
入学試験の詳細については、必ず「学生募集要項」、「入学志望者案内」でご確認ください。
※ 入試過去問題の販売については東大まちづくり大学院のサイトをご覧ください。

- 2018年度入試結果

募集人員：12名 志願者数：55名
合格者数：18名 入学者数：18名

- 学費

入学料：282,000円(予定額)
授業料：年額 535,800円(予定額)



■お問い合わせ先

〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻事務室内 東大まちづくり大学院デスク

TEL:03-5841-8362 FAX:03-5841-0370

E-mail office@mps.t.u-tokyo.ac.jp URL <http://www.due.t.u-tokyo.ac.jp/mps>

